

1 基本計画策定の目的

■基本計画策定の目的

「嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針」を踏まえ、稲築中学校区の特徴を生かした施設整備の具体化を図ることを本計画の目的とします。

■施設整備の基本方針



※1：4つの課題とは、嘉麻市教育の目標である「就労できる力」を達成するために、教育委員会の重点課題として取り組んでいる「学力向上」「不登校解消」「規範意識の醸成」「郷土を愛する人材育成」

2 計画候補地の現況及び課題

■稲築西小学校の現状

校舎は北側配置、体育館は南側配置、プールはグラウンドとレベル差の東側配置、グラウンドは稲築中学校と隣接する南側配置です。敷地南側は、グラウンドを境界に稲築中学校敷地と3m程度の高低差があります。

■稲築中学校の現状

校舎は東側配置、体育館は中央配置、武道場は東側配置、プールは西側配置、グラウンドは西側配置です。敷地北側は稲築西小学校グラウンドに隣接しており、3m程度の高低差があります。



■稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地の比較検討

稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地について、以下3項目の比較を示します。

比較項目	稲築西小学校敷地	稲築中学校敷地	稲築西小学校敷地 + 稲築中学校敷地
敷地面積	約28,000㎡	約30,000㎡	約58,000㎡
安全性	高台に位置し、防災拠点としての機能を有しています。	高台に位置し、防災拠点としての機能を有しています。	高台に位置し、防災拠点としての機能を有しています。
計画候補地としての適性	敷地面積が狭小です。	敷地面積が狭小です。	両敷地を一体的に活用することで、敷地面積を満たします。

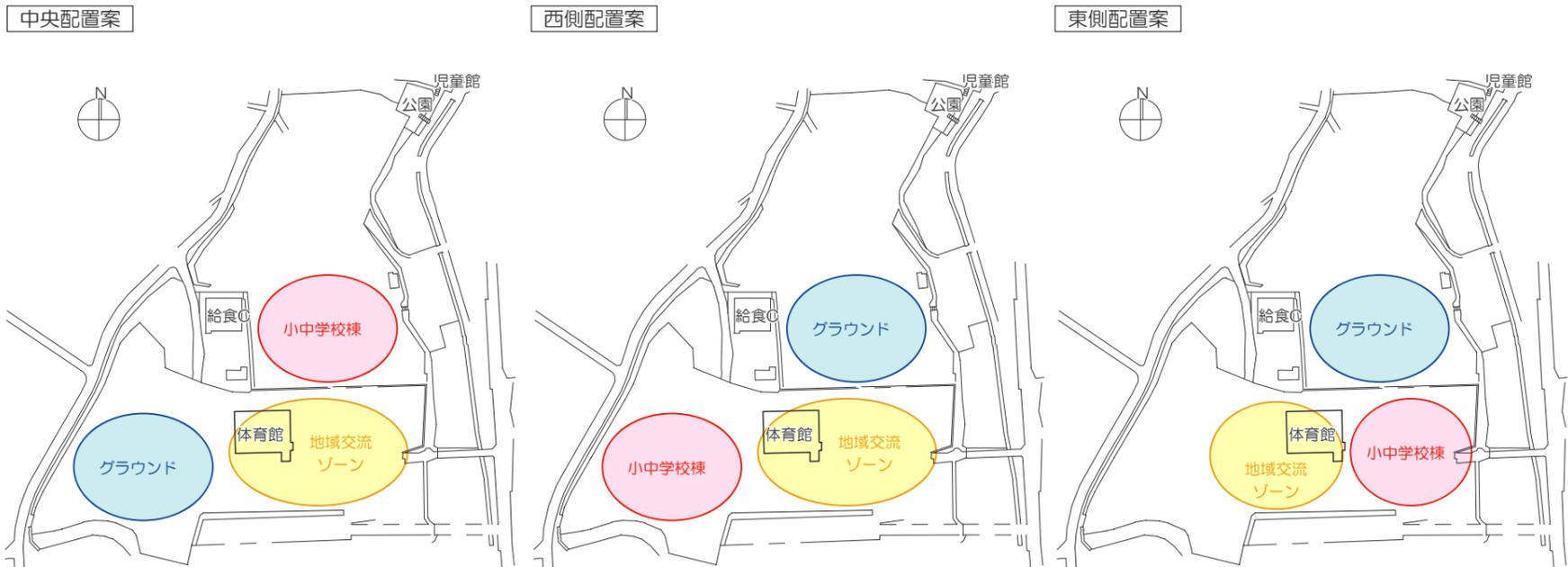
■計画候補地の決定

稲築中学校区の計画候補地については、敷地面積や安全性等の観点から、稲築西小学校敷地及び稲築中学校敷地の両敷地を計画候補地とします。

3 配置計画

■配置計画の比較検討

計画候補地内での配置計画について、中央配置案、西側配置案、東側配置案の3つの案の比較を示します。



地域交流ゾーン：地域コミュニティの拠点として、児童生徒と地域住民が交流を図れるゾーンのこと。
※プールについては検討中

■配置計画の比較検討

項目	中央配置案	西側配置案	東側配置案
新校舎の位置	稲築西小学校の現グラウンドに建設	稲築中学校の現グラウンドに建設	稲築中学校の現校舎敷地に建設
学校周辺地域への影響	周辺地域への影響は少ない	周辺地域への影響は少ない	東側住宅地側に新校舎近接のため日照影響有り
幹線道路との接続	来校者は稲築中前交差点より接続 教職員は現小学校正門及び西側道路より接続	来校者は稲築中前交差点より接続 教職員は現小学校正門及び西側道路より接続	来校者は稲築中前交差点より接続 教職員は現小学校正門及び西側道路より接続
歩車動線分離	歩車動線は分離	歩車動線は分離	歩車動線は分離
仮設校舎使用の有無	仮設校舎使用 無	仮設校舎使用 無	仮設校舎使用 有 (中学校用の仮設校舎)
地域に開かれた学校 (地域開放性)	体育館と地域交流ゾーンが近接 学校と地域交流ゾーンの区分が明確 来校者動線を限定し全体把握が可能です。	体育館と地域交流ゾーンが近接 学校と地域交流ゾーンの区分が明確 来校者動線を限定し全体把握が難しいです。	体育館と地域交流ゾーンが近接 学校と地域交流ゾーンの区分が明確でない 来校者動線を限定し全体把握が難しいです。
工事期間中の安全確保	工事車両と歩車動線は分離	工事車両と歩車動線は分離	工事車両と歩車動線は分離
工期 (着工から新校舎引越)	約1.5か年	約1.5か年	約2.5か年
工事期間中の地域に開かれた学校 (地域開放性)	既存小中学校体育館の利用可能 現小学校グラウンドの利用不可能	既存小中学校体育館の利用可能 現中学校グラウンドの利用不可能	現小中学校体育館の利用可能 現中学校グラウンドの利用不可能
配置計画の適正	◎	○	△

共通事項として、稲築中学校の体育館は、著しい老朽化も見られないため、改修により対応します。また、稲築中学校の体育館のみでは面数不足が生じるため、武道場兼サブアリーナの整備についても検討します。

■配置計画の決定

稲築中学校区の配置計画については、仮設校舎建設による財政面の負担や児童生徒の学校生活への影響、不審者対策及び安全対策等の観点から、新校舎を稲築西小学校のグラウンドに整備する中央配置案とします。

4 学校規模・平面計画

■校舎面積

稲築中学校区の小中一体型校舎における校舎面積の算定方法は、特別教室などを共有するため、30人以下学級における学級数を基準とし、中学校の算定基準表に準じて算定することとします。

稲築中学校区の校舎計画面積は、約10,500㎡とします。

■教室形状

小中一体型校舎における普通教室の形状は、「学年段階の区切りに対応した空間構成」とします。

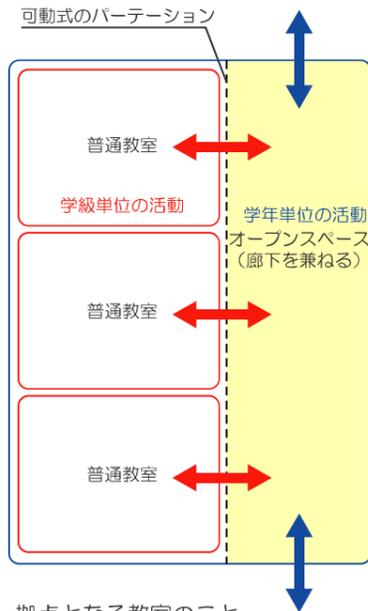
<小学校>

- ・オープンスペース型とし、学年ごとにユニットを構成します。
- ・広い廊下がオープンスペースを兼ね、学年単位でのまとまりを重視します。
- ・普通教室とオープンスペースの間には可動式のパーテーションを設置し、学級単位の活動に対応します。

<中学校>

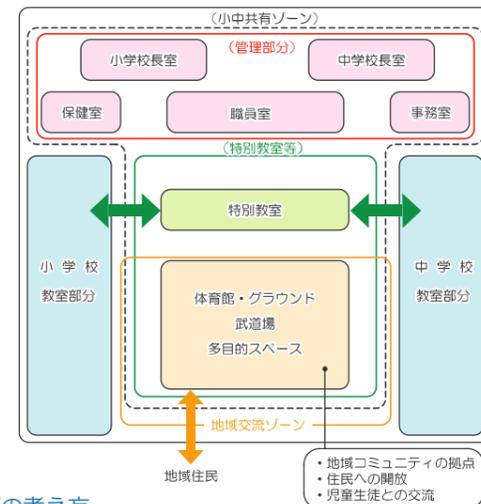
- ・生徒が主体的に学ぶことを重視して、大型モニターなどの情報機器を備えた教科教室を配置します。
- ・落ち着いた学級活動が確実に実施出来るよう、普通教室同等のホームベース（HB）を配置し、教科教室を配置していない教科についてはHBで授業を実施します。
- ・教室外にロッカースペースを配置することで、十分な収納スペースを確保し、生徒が授業に集中できる室内環境を目指します。

HB：ホームルームなどの学校生活を行う上で、拠点となる教室のこと。



■配置ゾーニングの考え方

- (1) 車両と歩行者を明確に分離します。
- (2) 諸室
 - ・管理諸室は全体が見渡せる配置とします。
 - ・小学校中高学年は、中学生を意識できる配置とします。
 - ・中学校は小学校との単位時間の違いなどの運用面、管理面に配慮した区分とします。
 - ・特別支援学級は、交流学級と連携のしやすい配置とします。
- (3) 学校管理ゾーンと地域交流ゾーンを明確に分離します。
- (4) 小中学校の交流、連携の拠点となる異学年交流スペースを配置します。
- (5) 特別教室、管理諸室を小中学校で共有化し、施設全体をコンパクトに集約します。
- (6) 稲築中学校区の地域コミュニティの拠点として地域住民が親しみ、集いやすい配置とします。



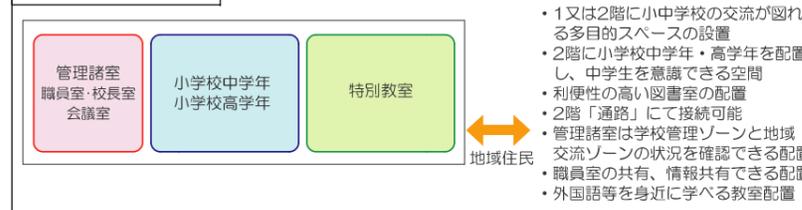
■各階ゾーニングの考え方

- (1) 小中学校が独自性を保ちつつ、学校と地域が連携しやすい構成とします。
- (2) 小中学校の交流、連携のための「多目的スペース」を小中一体型校舎の中心に配置し、特色のある教育活動を推進します。
- (3) 小中一体型校舎への移行により、学校間の交流、連携を行いやすくするため、施設全体をコンパクトに集約します。
- (4) 稲築西小学校のグラウンド広さの制約や小中学校の単位時間の違いなどの運用面・管理面から、階層により区分します。

構成する3階イメージ図



構成する2階イメージ図



構成する1階イメージ図



■諸室計画

本計画に必要な諸室を以下のように設定します。

小中学校校舎

生活・学習ゾーン	小学校低学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	小学校中学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	小学校高学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	中学校ゾーン ・普通教室（HB） ・ロッカースペース ・WC、手洗い
	特別支援ゾーン ・特別支援学級 ・通級指導教室 ・WC、手洗い	少人数教室 ・少人数指導教室	多目的 ・多目的教室	共用部 ・昇降口 ・ホール
	給食 ・調理、休憩、配膳 ・食品庫DW	共用 ・エレベーター ・階段 ・廊下 ・備蓄倉庫		
教科学習ゾーン	特別教室 ・外国語活動室 ・理科教室 ・音楽教室			
	・家庭教室 ・技術教室 ・美術教室	・図画工作教室 ・教科教室 ・コンピュータ教室	・多目的スペース ・図書室	
校務ゾーン	校務センター ・職員室 ・休憩室 ・校長室 ・印刷室 ・倉庫		付属 ・職員WC ・教材・教具室 ・地域活動・PTA室	保健・相談 ・保健室 ・相談室 ・進路指導室
	・事務室 ・更衣室 ・放送室 ・会議室			
体育施設	体育館関連 ・体育館 ・ステージ ・WC		武道場関連 ・武道場 ・兼サブアリーナ ・倉庫	学童保育所 ・職員室 ・WC ・教室
	・更衣室 ・倉庫 ・器具庫			

5 構造計画・設備計画

■構造計画の検討

小中一体型校は、地震災害時の避難所としての施設でもあるため、一般の施設に比べ、大地震動に対する安全性を確保しておく必要があります。よって、耐震安全性の目標は官庁施設の耐震基準で定められている重要度係数に従い、保すべき性能を確保します。また、避難施設として備蓄倉庫などの整備を計画します。

■設備計画の検討

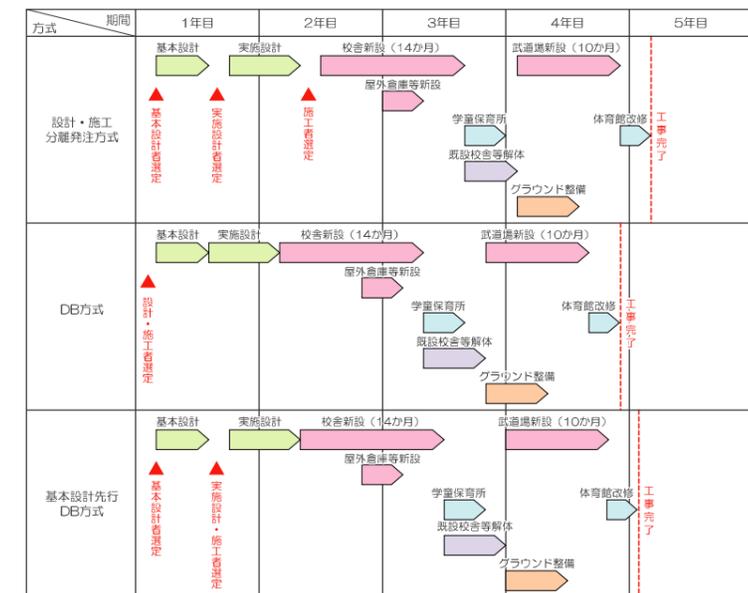
本計画において、以下の4つを設備計画の考え方とします。

- (1) 「維持管理しやすい設備」
信頼性や安心性・操作性が高く、維持管理しやすい設備とします。
- (2) 「時代の変化に対応できる設備」
時代の変化や技術の進展に柔軟に対応できる設備とします。
- (3) 「環境に配慮した設備」
エコスクール概念を取り入れ、自然と共生できる設備とします。
- (4) 「安全・安心を守る設備」
災害時避難施設として必要な機能を備えた設備を計画します。

6 事業計画

■事業スケジュール（案）

各発注方式別に、基本設計から実施設計、施工、工事完了までの全体工程表を比較します。



今回の稲築中学校区小中一体型校舎施設整備については、以下の条件が想定されます。

- (1) 工期短縮の可能性
- (2) 高度な技術力、知識、情報等の採用
- (3) スケジュールの遵守

以上のことから、基本計画の実現、社会環境の変化等の多様な条件に対応可能な発注方式を検討していきます。

■概算事業費について

建設工事費算出に係る単価を、近隣実績から建設単価約30万円/㎡程度、改修単価約10万円/㎡程度とし、配置計画、各階平面計画等に基づき概算事業費を以下のとおり試算しました。なお、外構工事等の現時点で試算することが困難な費用については、概算事業費に含まれておりませんので、引き続き検討していきます。

項目	金額	備考
建設工事費	3,700	校舎新設 学童保育所棟新設 武道場兼サブアリーナ棟新設 体育館棟改修

※現時点で可能な範囲で試算しています。